



子どもたちの「ウェルビーイング」を育む

校長 白井 亮司

28日に音楽朝会を行い、全校で「赤い屋根の家」を歌った後、2年生が「かっこう」の合唱と合奏を発表しました。全校合唱では、子どもたちの心が一つになった美しい歌声が体育館に響きました。2年生は、この日に向けて歌や合奏の練習に一生懸命取り組んでいました。発表後には、学校の仲間や保護者の皆様から温かな拍手を受け、達成感にあふれた笑顔が見られました。その経験は、一人ひとりの自信につながったことと思います。

そんな姿をうれしく見ていた同じ日、5年生の教室では、一人ひとりが書いた2年生への温かなメッセージが模造紙にまとめられていました。

音楽朝会での他学年の発表は10月以降も予定されています。全校の心を一つにすること、発表に向けて努力すること、発表を通して自信をもつこと、お互いのよさを認め合い伝え合うことなどを大切なねらいとして、今後も取組を進めてまいります。

また、先日には6年生が修学旅行で日光を訪れました。子どもたちがそれぞれの思いを込めてページを作成した手作りのしおりからは、修学旅行への期待や楽しみが伝わってきました。班行動では、時間や約束を意識するだけでなく、お互いの思いを尊重しながら行動する姿が見られました。

帰校式での感想の中では、友達と過ごした時間について語る児童が多く、歴史や文化に直接触れた学びとともに、仲間と過ごす時間の中にも大きな学びがあったことを感じました。

近年、教育の分野でも「ウェルビーイング」という言葉が大切にされています。ウェルビーイングとは、単に「楽しい」「うれしい」「困ったことがない」という状態ではなく、一人ひとりが自分らしさを発揮しながら、周囲の人とのつながりの中で幸せや生きがいを感じている状態を意味します。

学校は学びの場であると同時に、人と関わりながら成長する場でもあります。「できた」「分かった」という達成感、「ありがとう」と感謝される喜び、「みんなで力を合わせてやり遂げた」という充実感などを積み重ねられるよう、教育活動を進めてまいります。

また、子どもたちがそのような思いをより実感できるようにするためには、子ども同士の関わりだけでなく、わたしたち大人の関わりも大切です。8月末に実施した「のほほの会（別紙参照）」では、保護者や地域の皆様の子どもたちへの温かな思いが数多く語られ、とても心強く感じました。

一人ひとりのウェルビーイングの実現を目指し、家庭・地域・学校が力を合わせて子どもたちを育んでいきたいと考えています。

今月は、台風接近に伴う休校など、お子さんの安全確保にご理解、ご協力をいただきありがとうございました。学校では今後も、施設設備の点検を含め、児童の安全・安心を第一に教育活動を進めてまいります。